

中日国交回復の祖・岡崎嘉平太の「信」と「愛」

三江学院 2011 届本科毕业设计（论文） 孫蔚

『目次』

序論	p2
第一章 岡崎嘉平太の経歴と人間性	p3
1.1 幼年時代——母の教え	
1.2 学生時代——中国人留学生との出会い	
(1) 陳範九との出会い——中日友好の原点	
(2) 龔徳柏との出会い——反日活動家との友情	
1.3 銀行員・ベルリン・上海大使館事務局大使館・全日空時代	
——グローバルな視点で先を見通す力と経営能力	
1.4 岡崎嘉平太氏の人間性	
第二章 中日国交回復と岡崎嘉平太の人生観・世界観	p7
2.1 中日交流促進時代	
(1) 内山完造との出会い——日中友好の仲間	
(2) 覺書貿易——中日国交正常化へ向けての大きな一歩	
(3) 中日国交回復——中日友好の夢の実現	
2.2 周恩来総理との信頼関係——岡崎嘉平太の「人生の師」	
2.3 中国人との交流——中国人の敬愛の心	
(1) 運転手とのエピソード	
(2) 上海銀行時代	
(3) 引き上げの時	
2.4 「岡崎嘉平太語録」——岡崎嘉平太の人生感・世界観	
(1) 「信はたて糸 愛はよこ糸 織り成せ人の世を美しく」	
(2) 「『小さな親切』は愛です」	
(3) 「相手の身になって考える」	
(4) 「生涯持一誠」	
(5) 「中国を知るには中国に行ってみることだ」	
(6) 「譲っておさまるものなら、譲るのが偉いのだ」	
(7) 「克己」	
(8) 「責任」	
(9) 「日本と中国が仲よくしないと、アジアの平和も世界の平和もない」	
(10) 「経営というのは、国の経営でも会社の経営でも同じだ」	
第三章 岡崎嘉平太の「信」と「愛」に学ぶ中日友好の継承	p13
3.1 岡崎嘉平太記念館とその活動	
(1) パンフレットの作成	
(2) 出前講座	
(3) 「岡崎嘉平太氏世界平和への道を考える会」	
3.2 岡崎嘉平太国際奨学金財団	
3.3 中国での岡崎嘉平太の授業——中国の大学生作文集	
第四章 中日友好への提言——「岡崎嘉平太氏と中日友好のアンケート」	p17
4.1 「岡崎嘉平太と中日友好へのアンケート」の分析	
(1) 調査対象と調査方法	
(2) 調査の内容と結果考察	
4.2 中日友好への提言——岡崎嘉平太の「信」と「愛」を継承していく	
結論	p32
謝辞	
参考文献	
アンケート資料	

中日国交回復の祖・岡崎嘉平太の「信」と「愛」

序論

中日両国は一衣帯水に隔てられた隣国であり、二千年にわたる交流の歴史がある。しかし、最近、尖閣諸島をめぐる不愉快なことがあった。それは、歴史の大河の中に置けば、千年の中の一回に過ぎず、瞬く間に過ぎ去っていくものだ。こういう時期、戦後、中日の国交を回復させるために尽力した岡崎嘉平太のことを知るととても感動した。両国国民が平和で友好的な関係になるように、岡崎嘉平太がどのように尽力したかを皆が知る必要があると思う。

「なぜ彼が、中日友好のために尽力したのか」「彼はどのような方法で、中日両国の国交回復に尽力したのか」「彼の『信』と『愛』の心はどのように育てられたのか」こうしたことを研究をとおして明らかにしたい。この研究をとおして、一人でも多くの人が、中日国交回復の「井戸を掘った人」——岡崎嘉平太の恩を知ることを望んでいる。特にこれから、中日友好の主力となる若い世代が、「信はたて糸、愛はよこ糸、織り成す人の世を美しく」を信条として中日友好に尽くした岡崎嘉平太の生き方を学ぶことは大きな意義があると思う。文献などを参考にするとともに、アンケート調査も実施して、岡崎嘉平太氏の生き方を研究し、今後の中日友好の提言をしたい。

本論

第一章 岡崎嘉平太の経歴と人間性



1897年岡崎嘉平太は岡山県賀陽郡大和村（現・吉備中央町）に、農業・岡崎鶴太郎の長男として生まれる。旧制岡山中学校時代、中国の留学生と知り合い中日友好に尽くすことを決意する。東京帝国大学¹法学部に進み、1922年（大正11年）に同大学を卒業し、日本銀行に入行した。戦後は会社再建に尽力し、「全日空」社長としても活躍した。1962年、中日両国の民間貿易を発展させるため、日中貿易交渉の一員として訪中し、翌年からは団長として訪中し、周恩来総理とたびたび会見した。貿易を通じて、中日友好を促進しようと「覚書貿易」の協定をした。このことが「中日国交正常化」の実現につながった。周恩来総理は、「中日国交回復の『井戸を掘った人』と彼を讃えた。岡崎は日中経済協会²常任顧問及び日中青年研修会の責任者として活躍し、終始中日友好事業に熱心に取り組み、中日両国国民の子々代々友好のために自分のすべてを注ぎ込んだ。戦後100回中国を訪問した。『信』はたて糸『愛』はよこ糸 織り成せ人の世を美しく」が彼の信条である。

1.1 幼年時代——母の教え



岡崎嘉平太氏は子供のころ、喧嘩をしても負けることはなかった。岡崎嘉平太が喧嘩をして勝って帰ると、母親が心配して、「人と喧嘩をしてはいけない」「譲っておさまるものなら、譲るのが偉いのだ」と彼に言い聞かせた。

この「譲っておさまるものなら、譲るのが偉いのだ」という言葉は岡崎平太の生き方に大きな影響をもたらした。また、母親は宗教心の深い人で、岡崎嘉平太の小学生時代には近くの神社にお参りしてから、学校に行かせていた。こうしたことが岡崎が「信」と「愛」の心をもつようになった重要な要因の一つであると言える。

¹ 東京帝国大学は現在の東京大学の前身である。

² 1972年11月22日設立。岡崎嘉平太と、その日中間の経済交流促進事業に賛同した渡辺弥栄司（国際ビジネスコミュニケーション協会理事長・弁護士・旧通産省局長）らが設立の中心に関わった。

1.2 学生時代——中国人留学生との出会い

（1）陳範九との出会い——中日友好の原点

岡山中学校二年生（14歳）の時、中国の留学生陳範九と知り合った。陳範九は、その時、中国は外国からいじめられているという祖国の状態のことを進んで話をした。また、彼は字が上手なので、岡崎は「一葉扁舟」「克己」と書かれた書などをもらい、大切にした。岡崎嘉平太は陳の人柄がよかったのと、話の内容に強い関心を抱き、だんだん中国人と中国が好きになっていった。これが岡崎嘉平太の中国に対する関心の持ちはじめでもあり、開眼でもあった。岡崎の生涯尽力した中日友好の「原点」である。



（2）龔徳柏との出会い——反日活動家との友情

高等学校で龔徳柏という中国の留学生に出会った。彼は反日活動をしており、学校ではあまり日本人学生と親しくはしていなかった。時折寂しそうな素振りを見せる龔徳柏に、岡崎は言葉をかけた。二人はだんだん親しくなった。話の中で、岡崎は中国が外国からいじめられてひどい目に遭っているということを知った。日本も苛めているほうだった。「上海のイギリス租界にあるパブリックガーデン（今の黄浦公園）の入り口には“犬とシナ人入るべからず”という札が立てられているのだよ」という話を憤懣に堪えない顔でした。

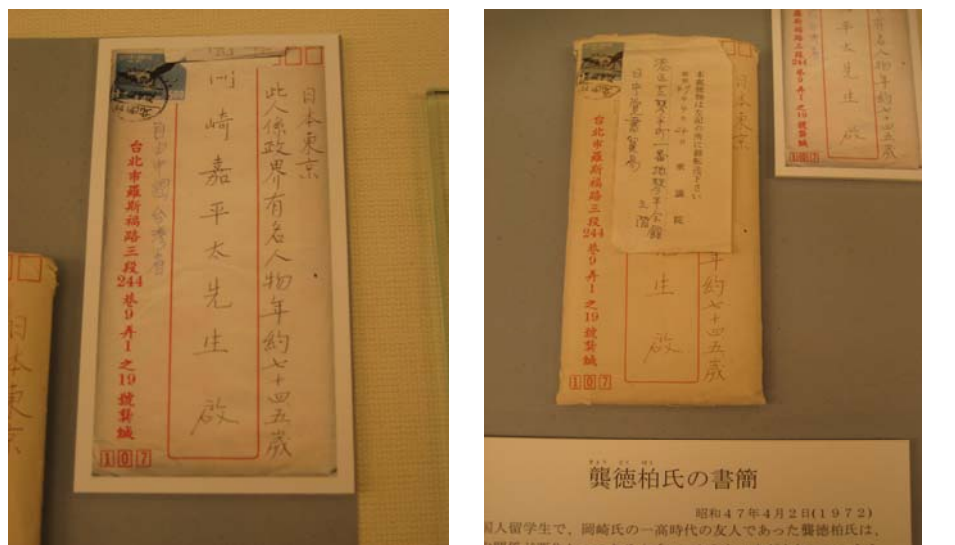
それで、岡崎は「犬を連れてシナ人入るべからず」ならまだわかるけど、犬と人を同格に置くとは何ごとだ、これは日本人を含むアジア人を馬鹿にしているのだという感じた。それが中日問題に興味をもった始まりだ。「いつかこういうアジア人蔑視の思想を徹廃させなければいけない、同時に日本は中国との仲を悪くしていたら、日本人自身が

困る時が来る」と岡崎は考えた³。

二年生になった時、彼は突然「僕は国に帰る。黙って帰ろうと思ったが、君は親切にしてくれたから話しておく」と言って帰国してしまった。

龚德柏は中国に帰国後、抗日活動家のリーダーとして南京でも活動した。日本が敗戦の時、蒋介石⁴が布告した——「怨みに報いるに徳をもってせよ」という言葉は龚德柏が進言したのではないかと思ひ、著書や談話で発表してかつての友情について述べている。しかし、龚德柏は、このことが耳に入ると「日中戦争で、中国が日本に勝つ二年前に我々は日本に絶対勝てるという確信をもった。その時に自分は意見を書いて、蒋介石にも差し出しておいた。その中に“日本に勝つことは決まっているけれど、勝っても日本が再起できないほど苛めてはならない。日本は我が国の経済復興に協力してもらわなければならぬ国だ”と書いておいた。」という手紙をもらった。——『岡崎嘉平太伝』P216

抗日活動家の龚德柏でさえ日本人の岡崎との友情を大切にしたのである。



1.3、銀行員・ベルリン・上海大使館事務所参事官・全日空

時代——グローバルな視点で先を見通す力と経営能力

日本銀行時代には、岡崎嘉平太氏ベルリンや上海に長く滞在して、激動する世界情勢を目の当たりにし、諸外国との交流や友好の大切さ

³ 『岡崎嘉平太伝』P58

⁴ 蒋介石は中華民国の政治家、軍人。国民政府主席、初代総統で5回当選し、合わせて1943年から死去するまで中華民国元首の地位にあった。

を身をもって知った。一国家、一企業、一個人の得失に偏することなく、世界的な規模で、また人類の遠い将来を見すえた巨視的な立場から物事をとらえるという、岡崎の根幹に脈々と流れている考え方の素地は、このような若き日の様々な体験から育まれた。

「経営というのは、国の経営でも、会社の経営でもそうですが、やはり未来はどうなるんだということをあらかじめ知ることが必要だと思う。そういうことを若い頃に関心して、将来の予測をする勉強をしたことを覚えております。」と述べている⁵

ベルリン駐在時にはドイツ人から正確な情報を収集して、政治家よりもナチスドイツの動向の的確な情報判断をしていた。こういうグローバルな視点で先を見通す力は終戦も予想していた。こういう能力を生かした経営でいろいろな日本企業が再建し、新会社も設立した。特に「全日空」社長としての経歴は有名である。

情報収集能力とグローバルな視点で先を見通す力が会社経営でも中日国交正常化でも生かされていると思う。

1.4 岡崎嘉平太氏の人間性

幼年時代、母の教え等をとおして、岡崎は「信」と「愛」の心を持つようになった。中国人留学生の陳範九と知り合って、14歳の中学生時代に、将来中日友好に尽力したいという志をもった。それから、高校時代に出会った反日活動家の龔徳柏との出来事は、岡崎が本気で中日友好のことを考えるようになった大きな原動力となった。いろいろな経験をとおして、「真心」と「信念」が養われた。どんな人でも、どこの国の人でも、同じ人間としてつきあったのである。戦争色の濃い時代に、中日友好という大きな理想を抱いて尽力した。また、外国駐在の経験などからグローバルな視点で先を見通す先見性や情報収集能力に優れていた。会社再建や「全日空」社長時代には、厳しい状況の中で、優れた経営能力を発揮している。本当に素晴らしい能力と人柄だと思う。信と愛に満ちた心で、中日友好国交回復に尽力したのである。

⁵ 『岡崎嘉平太 講演集 3』 p86

第二章 中日国交回復と岡崎嘉平太の人生観・世界観

2.1 中日交流促進時代

(1) 内山完造との出会い——日中友好の仲間

内山完造は上海で本屋をしており、岡崎と同じく岡山出身であった。内山完造は中国人を苛めることは非常に悪いことだと思っていた。だから、彼は日本軍が嫌いで、よく悪口を言っていた。「内山書店」には、中国の文化人もよく来た、魯迅や郭沫若との交流も有名である。彼は中国人を信頼していたし、中国人も彼を尊敬していた。北京で亡くなったのをわざわざ上海に持ってきて、上海の外国人を葬る所に祀られている。日中友好協会を日本ではじめてつくったのは、内山完造である。

同じ中国と中国人の好きな二人は、当然友達になったのである。日中友好の心強い仲間である。

(2) 覚書貿易⁶——中日国交正常化へ向けての大きな一歩

岡崎は日本が中国と国交を持たずにやってはいけなかった。そこで何とかして中日の国交を持つ方法を考えた。それはまず中日のお互いの利益につながる貿易がよいと判断してできたのが半官半民の「覚書貿易」である。

昭和 37 年 10 月、高碓達之助⁷が団長、岡崎嘉平太が副団長格で、11 月 9 日北京で高碓、廖承志⁸との間で「日中総合貿易に関する貿易」が調印された。（廖・高碓両氏の名前を取って LT 貿易と言われる）この貿易協定案は、準政府間協定とも言うべきもので、このルートは単に貿易のみでなく、同 39（1964）年には、連絡事務所の相互設置や記者降雨間について合意するなど、日中間話し合いの窓口として機能した。——『岡崎嘉平太伝』P286

この「覚書貿易」の成立が中国国交正常化へ向けての素晴らしい方策であると思う。岡崎の貿易協定は非常に具体的であり、連絡事務所が日中間の訪問談を話し合う窓となる。岡崎嘉平太の作成した案が日中国交正常化を目指していたものであることがよくわかる。彼の中日友好への強い信念と情熱を感じると同時に、経営能力の優れた経済人としての腕にも感激する。

⁶ おぼえがきぼうえきと読む。昭和 37（1962 年）年 9 月、日中関係に強い意欲をもつ、時の池田勇人首相との連携のもと、松村謙三⁶は再度訪中し、周恩来総理と三回会談、同月 19 日松村・周会談に関する共同発表を行うとともに、貿易については、①バーター、延払い、総合的な項目を含む長期契約による貿易拡大を図る。②両国間に連絡機関を設ける。③双方に保証人を立てる。④貿易品目、日本側の輸出—化学肥料、農薬、化学繊維品のプラント及びその技術、農薬機械等、中国側の輸出—石炭、塩、鉄鉱石、漢方薬等。⑤日本側は、貿易品目別にメーカーの集団を設け、中国側会社と交渉する、等について合意した。この合意内容には、日本側が提示した案が相当とりいれられているが、その案を作成したのが、岡崎嘉平太である。

⁷ 高碓達之助（たかさき たつのすけ、1885 年 2 月 7 日—1964 年 2 月 24 日）は、日本の政治家、実業家。電源開発初代総裁、通産大臣、初代経済企画庁長官等を歴任した。

⁸ 廖承志は 1908-1983 年、中国の政治家。

(3)、中日国交回復 —— 中日友好の夢の実現

半官半民の「覚書貿易」の成功やたびたびの交渉を通じて、岡崎嘉平太たちが築いた土台のもとで、やっと「中日国交回復」の夢の日がやってきた。

1972年7月7日に内閣総理大臣に就任した田中角栄⁹は、同年9月に自ら中国を訪問した。そして、9月29日、日本国外務大臣、大平正芳と中国の外交部部長：姬鹏飞¹⁰が「日本国政府と中華人民共和国政府の共同声明」（日中共同声明）に署名し、国交正常化が成立した。

なお、当時はまだ戦後30年も経過していない。交渉には日中戦争の傷が影を落としていたが、周恩来総理は「日本人民と中国人民はともに日本の軍国主義¹¹の被害者である」として、「日本軍国主義」と「日本人民」を分断する考え方によって「未来志向」の制作を提唱し、共同声明の成立に邁進した。岡崎と周恩来総理の中日の平和を希求する熱意がついに実ったのである。この「中日国交正常化」のおかげで、私たち中日両国民は現在交流ができていのである。

2.2、周恩来総理との信頼関係——岡崎嘉平太の「人生の師」

岡崎嘉平太と周恩来総理と初めて会ったのは北京の会談の時であった。まず周恩来総理は「中日間の貿易は最初から大きな規模で行うことはできません。これから徐々に拡大していきます。中日の関係も同じく漸進、少しずつ進む。漸進かつ積み上げの方式を用いて逐次改善していきます。中日両国は社会体制が違いますが、我々は相互不可侵の原則に基づき、共同してアジアの平和を実現するために努力しなければなりません。」「日清戦争が勃発して以来、日本の軍国主義は中国を侵略し、中国人民に巨大な損失を与えました。とりわけ9月18日は日本でいわゆる満州国事変¹²と言うあの事変以降、中国が被った被害は大変なものでした。しかしこの80年間は、二千年の中日友好史と比べれば短いものです。中日両国は仲良く付き合い、そして共同でアジアの平和と繁栄のために頑張らなくてはなりません。中国が強くなりたいたいののは、他の国を侵略するためではなく、他人からの侵略を防ぐためです。我々両国は友好的な善隣関係を築かなければなりません。」とこう語った。

⁹ 田中角栄（たなか かくえい、1918—1992年）は、日本の政治家。衆議院議員（16期）、郵政大臣、大蔵大臣、通商産業大臣、内閣総理大臣等を歴任した。

¹⁰ 姬鹏飞（き ほうひ、1910-2000）は中華人民共和国の政治家、國務院副総理、外交部部長等を務めた。

¹¹ 軍国主義とは軍事力を国家戦略的に重視し、政治体制、戦略、財政、経済体制、社会構造等々集後的な国力を軍事力の増強のため集中的に投入する国家の体制や思想を意味する。軍事主義とも呼ばれる。

¹² 満州事変は、1931年9月18日に中華民国奉天郊外柳条湖で、関東軍が南満州鉄道の路線を爆破した事件に端を発し、関東軍による満州全土の占領を経て、1933年5月31日塘沽協定成立に至る、大日本帝国と中華民国との間の武力紛争である。

そして、突然岡崎に「岡崎先生はどうお考えですか」とたずねた。

岡崎は次のように答えている「学生時代からアジア各国の独立のためにその文化を発展させ、貧困を撲滅するために日本は中国と手を携えなければならぬと、ずっと思っていました。日本は中国と仲良くしなければなりません。これは両国の人民に利益をもたらすことです。中国の戦国時代、趙という国があって、趙の国の宰相大臣ですね、藺相如という総理だ人がいました。そして廉頗という将軍がいました。この二人は不仲でした。中が悪かった。しかし国益を考えてこの二人は結局仲直りして、『刎頸の交わり』¹³となりました。つまり友情のためなら首をはねられても構わないということです。——日本と中国も同じです。両国自民の利益のために我々は仲良く付き合わなければなりません。——『岡崎嘉平太が目指した世界平和への道を考える』岡崎嘉平太 講演集 第九回P15~17

岡崎は、国交正常化の共同声明調印の記念式典に、日本代表団から、招かれず出席できなかつた。事前にこれを知った周総理は、個人的に招待し、記念式典に先立つ形で少人数の祝賀会を開いた。何という行き届いた思いやりだろう。

「田中総理が来られたから国交が回復するものではありません。ここまで準備をするためには日本の多くの方が努力しております。我が国に『水を飲む時には、井戸を掘った人のことを忘れない』という言葉がありますが、そういう人があつたから国交回復できるんです」と岡崎嘉平太たちを中日国交回復の「井戸を掘った人」と讃えた。二人の信頼関係はこのように強いものであつた。まさに『刎頸の交わり』である。

岡崎嘉平太自身が書いた「周恩来総理の思い出」という文章がある。その中で、周恩来総理について「私にとっては、人生の師であつた。恐らく私が師とする最後の人であろう」と書いている。周恩来総理からもらつた写真をいつも部屋に飾っていた。亡くなつた時、息子さんに頼まれて棺に入れたほどだ。

また、周恩来総理の大理石の像をいつも机に置いていた。周恩来総理没後は、夫人を何度も訪ねている。岡崎と周恩来総理の深い友情と平和を希求する信念がよく分かつた。

2.3、中国人との交流——中国人の敬愛の心

①運転手のエピソード

¹³ 刎頸の交わり（ふんけい の まじわり）は「刎頸の友」ともいう。意味は「その友のためなら、たとえ首を切られても悔いなくらいの親しい交際」である。『史記』原文には「刎頸（之）交」とある。

岡崎嘉平太が上海大使官事務所にいる時の中国人の運転手は、日本が戦争に負けた時、「日本人から離れろ」という命令があったにもかかわらず、長く岡崎の車を運転した。その理由を尋ねると、運転手はこう答えた。「前の先生は酔っ払ってきて、自動車に乗ると私の頭をポンと叩いてどこどこへいけとやる。何分いるとも何とも言わないから、寒いのに我慢してたけれど、先生はここで後何分ぐらいいるから、その時に来てくれ、その間家に帰ってろよと言って、ほんとうに私をかわいがってくれた」。このことから岡崎嘉平太の人柄が分かる。だから、普通の中国人にも尊敬されたのである。

②上海銀行時代

上海の人々が、お金がなくて、米が買えないと困っていた時に、岡崎は戦争中なのに、お金を貸してあげた。上海の人々は、岡崎が上海を去る時、感謝してプレゼントを贈ろうとしたが、岡崎は「一緒に写真を撮るだけでいいよ」と断った。その時の写真が残っている。「中国人も日本人も困っている時はお互いさま」と考えていたのである。同じ人間として、中国人が好きだったことがよく分かる。

③引き上げの時

船で上海から引き揚げるとき、中国人の担当者が他の日本人から没収したお酒を二本そっと岡崎の荷物に入れてくれた。岡崎はこのような中国人が「可愛い」と言っている。こうした中国人の振る舞いを見ても、岡崎が中国人に愛されていたことが分かると思う。それは、彼が中国人が好きで、対等の人間としてつきあっていたからである。

2.4、「岡崎嘉平太語録」——岡崎嘉平太の人生観・世界観

岡崎嘉平太が 92 年の生涯の中で、大切にしていた言葉や人々に語りかけてきた言葉をまとめてみると、彼の人生観・世界観が見えてくる。彼の著書や多くの講演集や記録と彼について語った人々の言葉から主なものをまとめる。

(1)「信はたて糸 愛はよこ糸 織り成せ人の世を美しく」

——この言葉を生涯の信条として、学生のころからの志を曲げず、生涯中日友好に尽くした。戦争により日本と中国との国交が途絶えた時、貿易を通して交流を深め、両国の国交の回復を実現に導いた。深く心に刻んでおきたい言葉である。

(2)『『小さな親切』は愛です』

——（1982 年）5 月 28 日「小さな親切」運動広島県本部総会で次のように述べた。『『小さな親切』は愛です。愛というものをなぜ人間が大切にしない

けれ場ならないかと言いますと、自分の生命が大切なら、その大切な生命を保ってくれるものも大事にしなければならないからです。私は愛の根源はそういうところにあるのだと思っています。」

岡崎は「小さな親切運動長く活躍している。「小さな親切」を積み重ねると「大きな愛」になる。

(3) 「相手の身になって考える」——人間の最高で最低のモラル

——1978年10月6日、「全日空」の講演で述べた言葉だ。岡崎はいつも人の心を思いやって、ほかの人の立場に立って、物事を考えた。だから、国境を越えていろいろな人に尊敬された。中国国交についても、彼は中国の立場に立って考え、中国人の身になって考えたのである。¹⁴

(4) 「生涯持一誠」

——これは日銀、華興商業銀行の部下に贈った言葉である。真心をもって人と付き合い、人々から信頼され尊敬された。

日中国交正常化の役立者として、また、全日空をはじめとする数々の企業の設立や再建を果たした岡崎氏の生き方や思想から、現代を生きる私たちも多くのことを学べる。「誠」は現在の社会に欠かせない。

(5) 「中国を知るには中国に行ってみることだ」

——岡崎嘉平太はこういう信念を抱いて、度々中国へ足を運び、またなるべく多くの人を中国旅行へ誘って行った。そして、個人的な旅行のほかに、国交正常化後の日中関係を軌道に乗せるべく、経済交流や文化交流などを積極的に行った、戦後に訪中した回数は百回にも上った。偏見や一方的な思い込みで、判断するのではなく、自分の目で見て、正しく判断することの大切さが分かる。

(6) 「譲っておさまるものなら、譲るのが偉いのだ」

——第一章で述べた母の教えである。

(7) 「克己」

——中学時代に出会った陳範九二書いてもらった書である。彼はこの書を生涯大切にした。14歳で中日友好に尽力する決意をし、92歳で亡くなるまで78年間一貫して中日友好に尽力した。この「克己」の精神で自らを律して困難を乗り越え、人々から尊敬される人間になった。

¹⁴ 1897年10月6日、全日空整備株式会社清和台研修所開所式における講演での話内容

(8) 「責任」

——岡崎嘉平太が書いた書である。何事にも「責任」を大切に考えていた。「使命感」をもって、仕事や中日国交回復に努めたのだと思う。

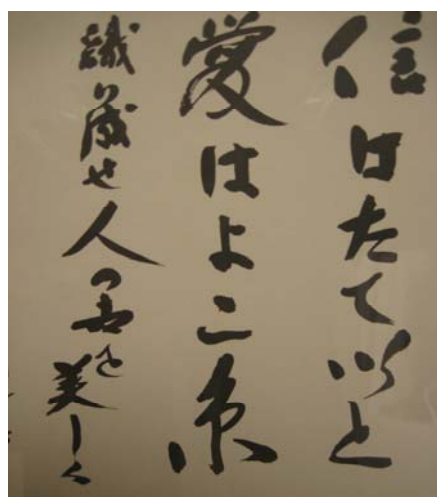


(9) 「日本と中国が仲良くしないと、アジアの平和も世界の平和もない」

——『汎アジア主義』¹⁵の世界観を持っていたことがよくわかる。周恩来総理も同じ考えであった。この『汎アジア主義』の考えで中日国交回復が成ったのである。彼は世界の平和も視野に入れていた。

(10) 「経営というのは、国の経営でも、会社の経営でも同じだ。」

——国の経営と会社の経営は同じようなものだと考えていた。目標に向けて着実な実践をする。そのためには先見性や情報活用能力やコミュニケーション能力等が不可欠である。経済人として優れていたが、彼は政治家になっていたら、周恩来総理と同じように信頼される国のリーダーになったと思う。



¹⁵ 「汎アジア主義」とは「アジアの諸民族が団結して、植民地または半植民地的な状態を脱し、民族の独立を達成しようという思想及び行動」「アジアのみんな団結してアジアの世界の中の発言力を高め、アジアの地位を高める、それから世界の平和を考える」という意味だ。

第三章、岡崎嘉平太の「信」と「愛」

に学ぶ中日友好の継承

3.1 岡崎嘉平太記念館とその活動



岡崎嘉平太の生まれ故郷の「岡山県吉備中央町」に「岡崎嘉平太記念館」がある。そこで、岡崎嘉平太の「信」と「愛」の精神による中日友好の継承がなされている。遺品約 7500 点を収蔵している。実際に岡崎嘉平太が使っていた遺品や書籍、中国の人々から送られた記念品などが展示されている。企画展では毎年テーマを決めて岡崎について紹介している。また、希望に応じて管内説明・団体の受け入れもしている。



(1)、パンフレットの作成

岡崎記念館には非常に分かりやすいパンフレットがある。日本語版と中国版両方ある。その分かりやすい程度と言えば、子供でも分かるように作成されている。親しみやすい絵も付いている。生き生きとしている。

(2) 出前講座

記念館のスタッフが、無料で出前講座をする。希望に添った講義内容で話す。学校での道徳・社会の授業や総合学習などの時間に岡崎嘉平太の生き方について話している、また、公民館などでの人権・文化講座などの分野でも行われている。

講座内容の例「嘉平太氏の生涯」・「嘉平太氏の信と愛の生き方について」・「嘉平太氏と中国一訪中 100 回の足跡」・「嘉平太氏と『もったいない』一貯蓄増強運動」などの生き方を学ぶとても素晴らしい実践である。

(3) 「岡崎嘉平太氏世界平和への道を考える会」

今まで九回の講演会を行っており、生前交流のあった中国人や中日交流を

している人や岡崎嘉平太の家族などが講演をしている。今後の日中関係や世界平和を考えるよい機会となっている。第九回（2010年）の「岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える」講演会は、山陽新聞社さん太ホールで、9月20日に開催された。

中国より招いた劉徳有先生（中国対外文化交流協会常務副会長）が、「岡崎嘉平太氏がめざした日中友好と世界平和への道」の演題で、講演した。劉徳有は、毛沢東主席や周恩来総理、郭沫若氏など中国要人の日本語通訳を務め、記者として、東京に15年間駐在した経歴もあり、日中関係をつぶさに知る歴史の証人だ。

「岡崎と周恩来は『汎アジア主義』を提唱していた。日本と中国は一緒になって、アジアの発言力を高め、アジアがきれいにまとまり、その地位が上がってくれば、ほんとうにその時こそ全世界の平和を呼び掛けることもできると述べている。」と講演した、

「歴史の証人」としての劉徳有の講演には、説得力がある。改めて、岡崎と周恩来総理の「汎アジア」の考え方が強かったことが確認できる。

劉徳有氏は中国漢俳協会の会長でもあり、自作の漢俳¹⁶を贈っている。



本文

交友信為光
風範照人秋月園
美譽滿人間

訳文

日中の友好に信念をもって導いた
その模範とすべき風格は、秋の満月が照らす
ようである。
その人格は、美しい名声に満ち溢れている。

3.2 岡崎嘉平太国際奨学金財団

財団法人設立趣意：(1) 岡崎嘉平太生前の業績を讃え、民族の相互理解・世界の平和と友好を記念していた故人の精神を広かつ永遠に後世に伝える。(2) 中国をはじめとするアジア地域諸国の人づくりを支援し、相互理解と国際交流を推進することにより世界の平和と発展に寄与する。

この岡崎嘉平太奨学金で毎年数多くの中国人やアジア人の学生が日本に留学している。そして、それぞれの国の政治、経済、教育界のリーダーとなって

¹⁶ 漢俳とは日本の俳句の形式にならった漢字五、七、五による新しい形式の漢詩詩で、1980年代に日本との文化交流の中で生まれた中国の俳句である。

活躍している。留学生は岡崎嘉平太のお墓に墓参りして感謝の気持ちを表している。

「岡崎嘉平太記念館」の「出前講座」や「世界平和への考える会」の講演会や国際留学生奨学金財団で、岡崎の「知」と「愛」に学び、中日友好の継承がなされていることがよく分かった。もっとこのことを中日の国民は知る必要があると思う。

3.3、中国での岡崎嘉平太の授業——中国の大学生の作文集

岡崎嘉平太と同じ岡山出身の三江学院の河本雅明先生は、「岡崎嘉平太記念館」が作成したパンフレット（日本語版と中国語版）や絵本等を使って、岡崎嘉平太を紹介して、学生に作文を書かせている。3年生 63人、2年生 128人の作文を読んだ。学生は全員初めて「中日国交回復の祖・岡崎嘉平太」のことを知り、彼の人柄や生き方、中日国交回復の経緯を知って、とても感動していることが分かる。「信はたて糸、愛はよこ糸、織り成せ人の世を美しく」の信条を自分の座右の銘にして生きていきたいと考えている学生もいる。多くの学生が「中日友好の架け橋になりたい」と述べている。

この作文集は、日本の「岡崎嘉平太記念館」に贈るそうだ。このことも岡崎嘉平太の「信」と「愛」による中日友好の継承につながると思う。

作文の一部を紹介する。



『「美しい調和の世を織り成す人」——岡崎嘉平太』 李婷 三江学院

「外国人に対して、私は今までこんなに親愛感と尊敬の心を持ったことがない。さらに、岡崎嘉平太の人柄と度量、また、中日友好のために努力しことにとても感心した。一人の人がこのように寛容の心で社会のいろいろなことに対処したことについて、私は心から感服した。（中略）。。。周恩来総理は岡崎さんを「井戸を掘った人」に例えた。確かに、彼こそ、この中日友好の「枯れ井戸」にもう一度活力を取り戻して、甘い調和の水をよみがえらせた人である。

『春草のような人』——季月花 三江学院

私は岡崎嘉平太さんを世の中の何かに喩えたとすれば、間違いなく生命力の強い春草だろうと思う。」

「今、岡崎嘉平太さんのような人が多ければよい」と私はしきりに思う。先日から尖閣諸島の難しい問題で中日関係が急に厳しくなっている。両国国民にも激しい行為をしている人がある。インターネットで、友好に反対するデモ行進の映像がいろいろと流れている。日本語を学んでいる中国人の私にとっては、とても悲しいことである。それでも、嘉平太さんのような人が多く現れると、両国がもっと理解しあって、もっと信頼しあって、こうした事件はきつとうまく解決できると思う。

「信はたて糸 愛はよこ糸 織り成せ人の世を美しく」という言葉は春草の精神を示しているのではないだろうか？中日の国民が広く大きな愛を抱けば、美しい世界を築くことができる。そう考えると、私は目の前がぱっと明るく開けてきた。両国の未来の空が晴れあがれることを楽しみにしている。

第四章、中日友好への提言

——「岡崎嘉平太と中日友好のアンケート」

4.1 「岡崎嘉平太と中日友好のアンケート」の分析

現在の中日の人々が「中日友好についてどのように考えているか」、「岡崎嘉平太についてどう思うか」を調査するために、アンケートを実施した。

(1) 調査対象と調査方法

実施時期：2011年3月1日～2011年3月13日

実施方法：①私の作成したアンケート用紙を三江学院の大学生に配って、記入してもらおう。②昆山の「豊田工業」に勤めている日本人と中国人に直接アンケート用紙を渡して記入してもらおう。

対象数：105人（三江学院日本語科の2,3年生）、46人（豊田工業の日本人）、95人（三江学院商学院、経済学部3年生）、50人（豊田工業の中国人）

調査の場所：三江学院、豊田工業（昆山）

回収率：100%

次にアンケート調査の内容を紹介し、結果を考察していく。

(2) 調査の内容と結果考察

1、あなたのことを教えてください。年齢と性別と職業。

年齢（ ） 性別（ ） 職業（ ）

中国の大学生はみんな20代前半である。

日本人は20代2人、30代21人、40代19人、50代4人の社会人と豊田の中国人は10代3人、20代36人、30代11人の社会人を対象としてアンケートを実施した。

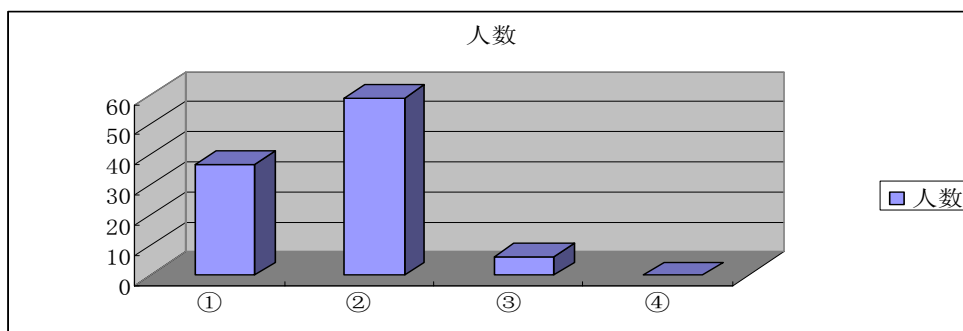
2、日ごろ、中日関係に関心を持っていますか。あてはまる項目に○を付けてください。

①とても関心をもっている

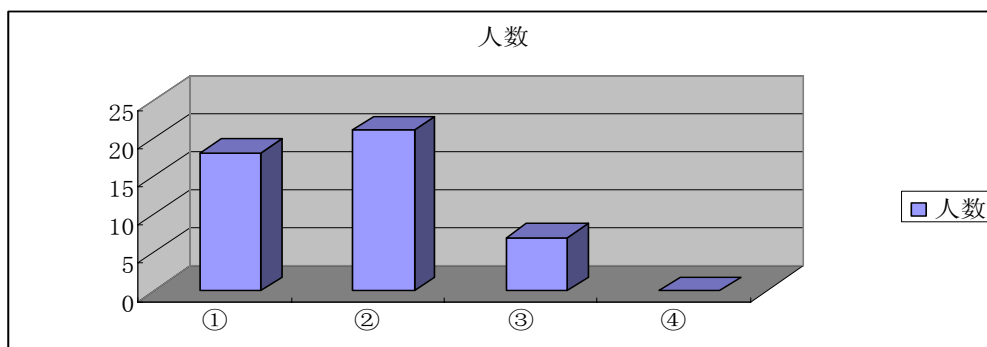
②かなり関心をもっている

③あまり関心をもっていない

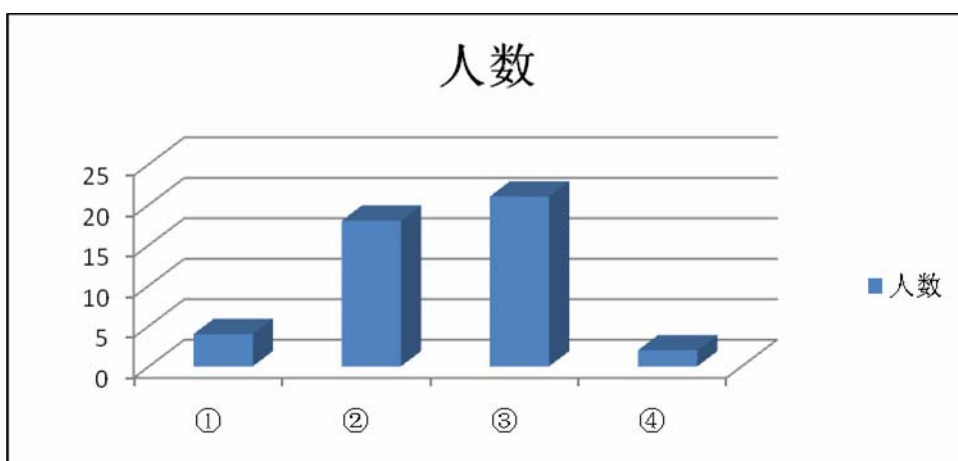
④全く関心がない



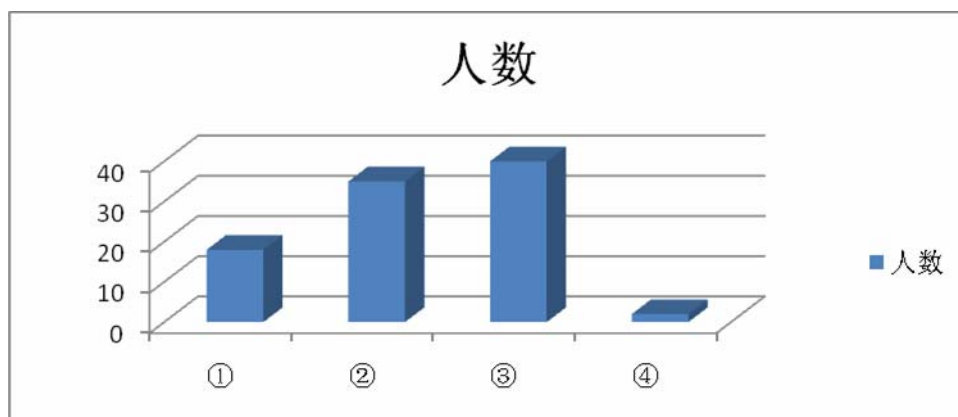
中国の日本語科の大学生の結果



日本人の結果



中国の社会人の結果



中国の日本語科以外の大学生の結果

みることだ」と岡崎嘉平太も言っている。中日両国は今後の友好ために、民間交流が大事だと分かった。しかし、中国の日本語科以外の大学生と中国の社会人は「あまり好きではない」を選んだ人が一番多い、「嫌いだ」と選んだ人もかなりいる。この原因は、中国の日本語科以外の大学生はほとんど日本人と接したことがないからだと思う。中国の社会人は日経企業で勤めており、日本人と多少接したことがあるので、傾向は中国の日本語科以外の大学生よりずっとよい。しかし、言葉が原因で、直接にコミュニケーションできないし、日本文化も知らないので、中国の日本語科の大学生と日本人より「好きだ」を選んだ人が少ない。

6、次の岡崎嘉平太さんについての紹介を参考にして、自分の印象に残ったことを次から選んでください。（複数回答可）

- ①彼が一生中日友好に尽力したこと②「信」と「愛」を大切にしたこと。
 ③周恩来総理との信頼関係④100 回も中国を訪問した⑤中学時代に中国の留学生と出会って中日友好を決意したこと⑥中日国交回復の祖であること。
 ⑦その他（ ）

	中国の日本語科の大学生 (人数)	日本人 (人数)	中国の日本語科 以外の大学生(人数)	中国の社会人(人数)
①	73	20	34	18
②	69	8	14	12
③	43	1	30	19
④	47	4	14	10
⑤	35	9	15	5
⑥	35	6	15	11

このデータを見ると、中国の日本語科の大学生は、岡崎嘉平太にもっとも関心をもっており、尊敬している感じがする。実は現在、岡崎嘉平太という人のことを知っている人はとても少ない。アンケートに答えた中国の大学生は、「岡崎嘉平太記念館」のパンフレット等で紹介してもらって、初めて彼のことを知ったのである。岡崎が「一生中日友好に尽力したこと」と『信』と『愛』を大切にした」生き方に感動し、彼を尊敬している学生が多い。中国の日本語科以外の大学生と中国の社会人と日本人もまた、彼のことを初めて知った人がほとんどであった。「中学時代に中日友好に貢献したいと決意したこと」に驚いている人もかなりいる。14歳で決意し、92歳で亡くなるまで中日友好に尽力した「中日国交回復の祖」であることも印象的であるようだ。①を選んだ人が

一番多いというところは同じだ。中国の社会人と日本語科以外の学生は、「周恩来総理との信頼関係」が2番目に多い。中日国交回復の歴史を初めて知って驚いていることがわかる。

岡崎嘉平太が、中日友好に自分の一生を捧げたいというのは大変素晴らしいと思う。不幸な歴史問題を正しく認識すると同時に、中日国交回復の歴史も現代の両国国民は正しく学ぶべきだと思う。

5、これからの中日友好の提言を書いてください。（今後中日友好にはどんなことが大切か。どんな方法があるか。）例えば：①貿易の拡大②留学生の交流。中日両国を旅行する。③スピーチコンテスト、作文コンクール開催。④国際学生会議開催⑤草の根の文化交流。⑥中日芸術祭（音楽・映画・アニメ等）⑦信頼関係の確立⑧歴史問題の共通認識⑨姉妹都市・姉妹校の協定推進⑩中国語・日本語学習などこれら以外のこともどしどし書いてください。

	中国の大学生（人数）	日本人（人数）	中国の日本語科以外の大学生（人数）	中国の社会人（人数）
①	34	5	16	11
②	31	9	12	14
③	4	2	2	0
④	3	1	8	2
⑤	27	3	12	9
⑥	20	0	11	5
⑦	18	16	11	10
⑧	19	5	17	20
⑨	13	0	2	1
⑩	6	5	9	14

中国人の大学生は、「貿易拡大」、「留学生交流」「旅行」「草の根の文化交流」を望む学生が多くいる。「中日芸術祭」「姉妹都市、姉妹校」「中国語、日本語学習」もかなりの数がある。

日本人は「信頼関係の確立が必要」と回答した人が一番多い、その次が「留学生の交流や旅行」である。

上記以外に次のような提言があった。

中国の日本語科の大学生：

- ①中日飲食交流
- ②両国の学校にそれぞれ中国文化科目と日本文化科目を設置する。

- ③外交の活動を増やす。
- ④スポーツ大会開催
- ⑤珍しい動物交換（パンダ等）
- ⑥日本料理と中華料理の交流会
- ⑦中国人と日本人が結婚する。
- ⑧中日についてのホームページを開く。
もっとホームステイのチャンスを作る。
- ⑨中国には日本の有名な人物の記念館を建て、日本には中国の偉い人物の記念館を建てる。中国に「岡崎嘉平太記念館」をつくる。
- ⑩中日友好のために、一致する点を求め、異なる点は残しておく。民間交流を促進する。
- ⑪歴史問題についてお互いが正しい理解をする。文化、教育交流が大切だ。
学生は、いろいろな方法を提案している。日本文化に興味・関心を強くもっていることが分かる。日本人との直接交流を希望している学生が非常に多い。日本に留学したり旅行したりして本当の日本を見たいと望んでいる人も多い。また、岡崎嘉平太記念館建設の提案もうれしい。

日本人：

- ① 信頼関係の確立が必要である。
日本が過去の問題を謝罪して、賠償する。
日本での中国に関する学校教育を見直す。（日本が犯した罪についてきちんと教育する）
中国政府が日本に対する学校教育方針を変える。
 - ② 誰でも自由に行き来できる環境づくり、
自分は日本人なので、1人でも多くの中国人が日本を見てほしい。
まずは貧富の差をなくしていくことが大切だと思う。
 - ③ お互いに助け合い、中国と日本が発展できればよいと思う。
③ 日本人も中国人もメディアに惑わされず、自分の目で相手を見ること。
留学生やコンテスト等、草の根的な活動がいつか実を結ぶと思います。
 - ④ 歴史を学び、謙虚に振り返り相手に接すること。
 - ⑤ 中国の生活習慣、考え方を受け入れること。
- 「朋友一起加油！」
- ⑥ 企業研修等の技術交流
報道規制をなくし、客観的な事実に基づく相互理解を図る。
 - ⑦ 中国人がもっと容易に日本に渡航できる環境をつくること。

中国の日本語科以外の大学生：

	中国の大学生（人数）	日本人（人数）	中国の日本語科以外の大学生(人数)	中国の社会人（人数）
①	34	1	10	3
②	47	8	9	5
③	63	13	29	24
④	55	19	15	31
⑤	66	9	16	17
⑥	4	1	26	9

この結果を見ると、やはり岡崎嘉平太のことを勉強した学生の方が、彼の影響を深く受けたということが分かる。①、②を選んだ人が日本人よりずっと多い。今の人々にとっては、岡崎のことを学ぶことはとても大事だということがよく分かる。また、⑤「日本人と交流したい」③「中日文化を学びたい」と考える学生がとても多い。日本人も同じだ。中日友好に絶対役に立つと思う。「朋友一起加油！」（友達、一緒に頑張ろう！）と書いてくれたのは、とてもうれしい。

8、中日友好について自由に書いてください。

中国の日本語科の大学生：

①私は日本のことが好きだけど、私の友達には日本が嫌いな人がいる。彼らは日本と日本人に偏見をもっている。しかし、日本の先端技術と日本人の国民性を認めている。私は友達の日本に対する偏見をなくすために努力する。

②最近、日本では次から次へと大震災があったことを知って、残念だと思っています。地震と津波で多くの人が亡くなったり、故郷を失ったりしました。日本はきっと早く復興すると思っています。日本、頑張れ！

③中国と日本はアジアの隣国で、経済のグローバル化に伴って、両国がもっとお互いに依存するようになった。中日友好は両国に大切なことだ。大学生としての私たちは日本の文化や政治等を学ばなければならない。それに、日本語を一生懸命勉強して、日本人と交流し、日本のことをできるだけ理解しようと思っている。チャンスを利用して、日本人と交流する。他には、中日両国の歴史問題には正しく向きあう。両国の関係が親しくなるように頑張る。将来の発展には、両国は協力しなければいけない。

④将来日本語についての仕事をする人は特に中日両国の友好が重要である。中国の古代の思想家の孔子¹⁷は「人之初、性本善」と言った。人は生まれた時、

¹⁷孔子：春秋時代の中国の思想家、哲学者。儒家の始祖。

優しい人であるということだ。両国の人はみんなが「誠」をもって、交流したら、矛盾を解くことができる。交流は橋である。

交流は中日両国の友好の橋である。日本語を身につけている私たちは橋である。

⑤私は友達に日本のドラマを見てもらおう。ドラマを通じて、日本人のライフスタイルと国民性を理解できる。

みんなも中日両国の交流のために貢献しましょう。

⑥学生たちの交流は大人と比べて、もっと単純だ。学生たちの交流は、今後の中日交流の基礎である。だから、留学生だけでなく、広く学生たちは日本の先生たちや社会人とも交流しなければならない。機会があれば、ぜひ日本へ行って、観光しながら、自分なりの考えを他の人に話したい。

⑦日本語を勉強する学生として、私は複雑な感情をもっている。しかし、日本人は世界の他の民族と同じように、平和を愛する人間だと思う。中日友好にとって、私たちの責任は大きいと思う。微力ながらずっと頑張っていこうと思う。中日友好は夢ではなくて、近い将来のことだといつも信じているから。

⑧全世界の発展にともなって、国と国、人と人の国際文化も発展するに違いない。中国と日本は大家族になる。平和的に発展するように、全世界の人々はこの目的に努力している。世界の一部としての中国と日本は平和的に両国の問題を処理すべきだ。それと同時に、両国の各方面の発展を推進することが大切だ。

⑨地球に生き抜いている中日は兄弟のように親しむべきです。

私たちは歴史を忘れられないです。でも、時間が経つにつれて、歴史はもう歴史になりました。現代に立って、歴史を見えています。

また、未来を眺めます。共通の利益のために、中日が友好的に発展したり、協力したりします。みんな頑張ろう！

日本人：

①自分が中国へ来るまでは、中国人は日本人のことが嫌いだと思っていた。しかし、中国人はみんな親切に対応してくれる。

中日間の問題はたくさんあると思う。近隣国として、同じアジア人として協力していければ、よいと思う。

私も中国の言葉や文化を勉強し、もっと中国のことを知りたいと思う。

②お互いを理解するには、語学力も大切な要素なので、中国語、英語等を学ぶことは大切である。

お互いのことをもっとよく知れば、日中関係は良好になると思う。しかし、外交方針、国民性の違いが大きいので、そういう意味では難しいかもしれない

と思う。

③日本人の欧米 complex 亜細亜軽視の兆候があり、技術、文化交流を通して、相互の文化を理解することで個人レベルでのお互いの信頼関係を構築する必要がある

この信頼関係の上に立って、相互の考え方で Give と take を実施することにより友好は深まると考える。

④友好関係とは、人と人のつながりであり、特効薬があるわけではない。友人関係をつくるのと同様に、一歩ずつ積み重ねて、時には相手の欠点を認め補い合うことである。

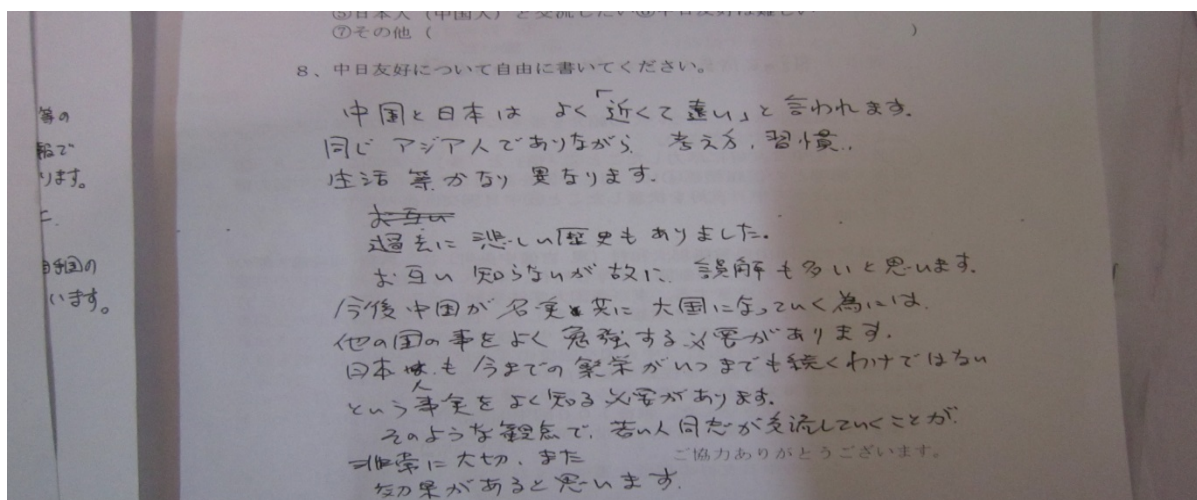
⑤中国と日本が良好な信頼関係を築くことこそ、友好につながると思います。そのために、今後の中国には経済大国としての自覚ある行動が必要と考えます。

もちろん、日本も中国の悪いところばかり報道することをやめ、理解を深める必要があると思います。

⑥中国と日本は一般的に仲があまりよくないとされている。

しかし、それはお互いの主張が強すぎ、歩み寄る姿勢が足りないからだと思う。よいこと、悪いことをお互いが真剣に考え議論し、悪い方は認め、よい方はそれを受け入れそれぞれの国がもっと親しくなればよいと思う。それができれば文化の交流ももっと増え、国益にもつながり、お互いの国がますます発展するのではないかと思う、個人的にはもっと日本と中国が仲良くなればよいなと真剣に思う。

⑦中国と日本との間にはまだ過去の歴史問題や領土問題等多くの問題があるが、中国人の若い人に聞いたところ、それ政治問題で、一人一人は同じ人間であり、中国人だろうか日本人だろうが関係ないと言ってくれました。自分は今まで、中国人に対して、誤解していました。





中国と日本はよく「近くて遠い」と言われます。同じアジア人でありながら、考え方、習慣、生活等かなり異なります。

過去に悲しい歴史もありました。お互い知らないが故に、誤解も多いと思います。

今後中国が名実ともに大国になっていくためには他の国のことをよく勉強する必要があります。

日本人も今までの繁栄がいつまでも続くわけではないという事実をよく知る必要があります。

そのような観点で、若い人同士が交流していくことが非常に大切で、また効果があると思います。

中国の日本語科以外の大学生：

- ① 日友好は両国国民の共通の望みだが、その前に、両国の不愉快な歴史も認識しなければならない。
- ② 永遠の敵はいない、敵は瞬く間に過ぎ去っていくものだ。平和は今日の主流だ。中国は寛大な心を持っている。今日は、日本と中国が協力して、WINWIN 関係をつくるのが大事だ。
- ③ 歴史問題は双方の政府の態度による。
- ④ 一緒にアジアの繁栄に努力する。
- ⑤ 中日旅行を発展させる。
- ⑥ 歴史問題の共通認識
- ⑦ 今日の社会は経済発展の社会だ。改革開放以来、中国の発展はみんな見ている。これは国の経済発展が必要である証拠だ。改革開放というのは日本も例外ではない。当然、私たちは歴史を忘れてはいけない、正しい目で見なければいけない。国の発展に利益のあることなら、受け入れるのは正しい。自分の国をもっと強く発展させる。
- ⑧ 自分の日本語能力を高めて、中日友好の架け橋になる。
- ⑨ 中日の友好は歴史から言えば難しいが、肝心なのは人と人の心だと思う。もし、両国の国民が平和な世界になるようにと望めば、それは実現できると思う。
- ⑩ 日本の経済の発展にとっても関心をもっている。日本はほとんど偽物がな、しかし、中国は偽物ばかりなので、その面では、日本に習ったほうがいい。
- ⑪ 中日友好は両国国民の望みだ、しかし、歴史問題が解決できなければ、中日友好は望みのままで、今の関係を続けていくしかない。
- ⑫ 自分が犯した罪を認めてから、友好関係を一緒につくりあげよう。同じ地球に住んでいるので、解決できない問題はないと思う。
- ⑬ 日本の発展にもっと関心をもち、友好関係になるように、もっと力を入

れる。日本文化を勉強し、お互いに困難がある時、助けあう。

⑭ 私にとっては、中日友好が実現することはなによりだ、しかし、日本の大臣のやり方に対して、中国人で不満をもっている人はかなりいる。だから、日本は歴史問題に対して、正しい認識が非常に大事だ。真心でつきあわないと、中日友好は実現しない。

⑮ 中日友好は中日両国にとってメリットがある。文化、経済だけではなくて、世界の平和の力になるから。

⑯ 中日の留学生を増やす。美食祭を開催する。

中国の社会人：

① 中日交流と中日文化の勉強を通じて、中日友好関係を築きたい。

② 個人的な考えでは中日友好はできない。各方面から見ると、日本の政策は中国を友達として認めていない。私たちが侵略した日本を許してあげたのに、今でも、中国を敵として見ている

③ 日本人から勉強する価値のあるところがある。そういうところを勉強して、自分を強くする。

④ 尖閣諸島は中国のものだ。

⑤ いろいろな面の交流を増やし、中日友好交流を促進する。

⑥ 中日文化と言葉の勉強が大事だ。

⑦ お互いに勉強しあい、もっと交流し、協力して発展していく。人権を尊重し、各民族に関心をもって交流する。

⑧ 正直に、平等に、友好的に付き合う。

⑨ 手を携えて、美しい世界を一緒に築きましょう。両国国民の世代代の友好に努力し続けましょう。

⑩ 両国国民の物事に対する考え方の差異が大きいので、もっと深い関係になることは難しい、今のままがいい、遠くもないし、近くもない。

⑪ 共通を求め、異なる点は残しておく。貿易を拡大し、文化交流し、歴史を反省し、お互いの利益を尊重し合えば、尖閣諸島は中国の領土ということも認めれば、中日関係がますます、よくなると思う。

⑫ 都市間の活動をもっと増やしてほしい。日本を旅行する。技能大会を開催する。

⑬ 可能吗（できる？）

⑭ 歴史は当然忘れてはいけない、愛国教育の目的は何度も何度も、昔の傷を開くのではなくて、私たちの目的は歴史を覚えて、頑張っていくことだ。

⑮ 歴史問題の共通認識が必要だ。そういう認識の源は教育だ。

⑯ アニメ、音楽を通じて、中日交流する。お互いに民族の文化を勉強し、中国語と日本語を勉強して、交流しましょう。

- ⑰ 中日友好の關係が末永く続いてほしい。平等で平和に付き合い、もっと多くの日本人が中国に来て、仕事をし、暮らしてほしい。
- ⑱ 歴史問題の認識が原因で、中日友好は難しい。人間は自分が犯したミスをお認めるべきだ。国もそうだ。

まとめ：

皆さんの書いてくれた内容は、やはり違う。中国の日本語科の大学生と中国で働いている日本人は、直接交流しているので、両国の友好は必要であると考え、友好促進のために積極的な提言をたくさん書いてくれた。しかし、中国の日本語科以外の大学生と中国の社会人は、中日友好は不可能、中日友好は難しい、中日關係は今ままでいいと言っている人が少なくない。直接交流と歴史・文化の正しい理解の重要性を強く感じる。だからこそ、中日友好に尽力した岡崎嘉平太と中日国交回復の歴史も今の中日両国国民が知る必要があると思う。多くの人が真剣に中日友好のことを考えて、率直な意見や提言を書いてくれた。岡崎嘉平太の生き方とアンケートを生かして「中日友好の提言」をしたい。

4.2 中日友好への提言——岡崎嘉平太の

「信」と「愛」を継承していく

考え方

- (1) 「中日国交回復の祖・岡崎嘉平太」の「信」と「愛」を継承していく
 - ・相手の身になって、未来志向で中日友好を推進する。
 - ・グローバルな視点でアジア・世界の平和を考える。
- (2) 岡崎嘉平太の先見性や情報活用能力、コミュニケーション能力、問題解決能力等の経営能力を学ぶ。
 - ・中日友好促進のため、具体的な手順・方法を考えて実行する。
- (3) 信頼関係を確立する。
 - ・信頼関係を築くために一人一人とのつながりを大切にして一歩ずつ積み重ねていく。
 - ・中日の文化や歴史を正しく理解する。

方法

- (1) 中日の文化や歴史認識問題・国交正常化について正しい教育を行う。
- (2) 留学生等中日の若者の交流の場を増やす。（インターネットの活用、国際

学生会議開催)

- (3) 姉妹校や姉妹都市を増やし、息の長い交流をする。
- (4) 草の根の文化交流を推進する。(文化祭、運動会、友達づくり等)
- (5) 国際理解教育¹⁸を推進する。(グローバルな視点で自国の文化、外国の文化を学ぶ)
- (6) 貿易拡大、技術提携をしていく。
- (7) 震災等、災害時相互支援をする。
- (8) 直接交流の機会を増やす。(ホームステイ、留学、旅行、交流会等)
- (9) 日本語、中国語の学習者を増やす。
- (10) 中国人と日本人と結婚する。

¹⁸ 国際理解教育——今日、多くの先進国の小中学校で、既存の教科と並行して力を入れている教育テーマの一つ。総合学習としても行われている。欧米で、この学習活動をワールド・スタンディーズ (world studies)、グローバル・スタディーズ (Global Studies) 等という呼び方をすることが多い。グローバルな視点で、異文化と自国の理解する教育である。(多文化教育、グローバル教育——類似する概念である)

結論

岡崎嘉平太の研究をとおして、岡崎が「信」と「愛」の心で生涯日中友好に尽力した「中日国交回復の祖」であることがよく分かった。幼年時代母の教え——「譲っておさまるものなら、譲るのが偉いのだ」という言葉は、彼が「信」と「愛」の心をもつようになった大きな要因である。中学生時代に、中国の留学生陳範九に出会って、14歳で、もう心の中で「一生中日友好に尽力する」と決意した。中日両国の国交回復の方法としては、貿易をとおして両国の国交回復を結ぶようにした。「覚書貿易」の貿易協定の原案は、岡崎が作成したもので、貿易品目等の内容も非常に具体的である。岡崎はグローバルな視点で先を見通す力や情報収集能力やコミュニケーション能力、問題解決能力等の経営能力が優れていたことがよく分かった。この経営能力が「中日国交正常化」の夢の実現にも発揮された。周恩来総理は、強い信念と優れた能力で中日国交正常化の道筋をつけた岡崎を「井戸を掘った人」と讃えた。岡崎は周恩来総理を「人生の師」と尊敬した。

「岡崎語録」をまとめると彼の人柄と人生観・世界観がよく分かった。「中国を知るには、中国に行ってみることだ」と戦後100回、92歳で亡くなる年まで中国を訪問した。本当に、国境を越えて中国と中国人を愛していたことが分かる。中国人からも岡崎は敬愛された。「日本と中国が仲良くしないとアジアの平和も世界の平和もない」という『汎アジア主義』の世界観は周恩来総理と同じであった。二人の信頼関係が中日国交正常化に大きな役割を果たした。

アンケートや学生の作文を見ると、中国の学生と日本人も岡崎嘉平太の生き方から様々なことを学んでいることがよく分かった。多くの人が彼の「信はたて糸 愛はよこ糸 織り成せ人の世を美しく」という信条と行動力に感動しているのが分かる。これから、彼のような「信」と「愛」の真心で、「中日友好の架け橋になりたい」と言っている。中国の日本語科の大学生と中国で働いている日本人は、直接交流しているので、両国の友好は必要であると考え、友好促進のために積極的な提言をたくさん書いてくれた。しかし、中国の日本語科以外の大学生と中国の社会人は、中日友好は不可能、中日友好は難しい、中日関係は今ままでいいと言っている人が少なくない。直接交流と歴史・文化の正しい理解の重要性を強く感じる。

アンケートを生かして「中日友好の提言」をまとめた。①岡崎嘉平太の「信」と「愛」を継承していく。②グローバルな視点で国際理解教育を推進する。③中日の文化と歴史の正しい教育をする。④「草の根の文化交流」を推進する。このような中日友好の提言が生かされるように、私も「草の根の文化交流」に

尽力し、「中日友好の架け橋」になりたい。

本研究はまだ不十分なところがある。特にアンケート調査では、分析が不十分で一面的なところがある。これからもっと研究していきたい。日本の学生にもアンケートを実施したいと考えている。

謝 辞

卒業論文の指導教官として、多くの参考資料を日本から持ってきていただき、ご多忙にも変わらず、何十回も指導していただいた河本雅明先生に心より感謝を表します。また、アンケートに協力していただいた三江学院の学生と豊田工業の社会人に深く感謝しています。おかげで、岡崎嘉平太という人物をより深く理解することができました。また、日本人と中国人の中日友好に対する素直な思いを知ることができました。今後とも岡崎嘉平太のことを研究し続けていきたいと思えます。私も岡崎嘉平太のように中日友好の架け橋になって、中日友好に貢献したいです。

参考文献

- 「1」 岡崎嘉平太伝刊行会編. 岡崎嘉平太伝「M」. 株式会社ぎょうせい. 1993
- 「2」 岡山県郷土文化財団 岡崎嘉平太記念館. 岡崎嘉平太が目指した世界平和への道を考える 第一回「M」. 創文社. 2003
- 「3」 岡山県郷土文化財団 岡崎嘉平太記念館. 岡崎嘉平太が目指した世界平和への道を考える 第三回「M」. 創文社. 2005
- 「4」 岡山県郷土文化財団 岡崎嘉平太記念館. 岡崎嘉平太が目指した世界平和への道を考える 第四回「M」. 創文社. 2006
- 「5」 岡山県郷土文化財団 岡崎嘉平太記念館. 岡崎嘉平太が目指した世界平和への道を考える 第五回「M」. 創文社. 2007
- 「6」 岡山県郷土文化財団 岡崎嘉平太記念館. 岡崎嘉平太が目指した世界平和への道を考える 第七回「M」. 創文社. 2009
- 「7」 岡山県郷土文化財団 岡崎嘉平太記念館. 岡崎嘉平太が目指した世界平和への道を考える 第九回「M」. 創文社. 2010
- 「8」 岡山県郷土文化財団 岡崎嘉平太記念館. 紀要 第一号 岡崎嘉平太 講演集 1. 「M」. 創文社. 2005
- 「9」 岡山県郷土文化財団 岡崎嘉平太記念館. 紀要 第二号 岡崎嘉平太 講演集 2. 「M」. 創文社. 2006
- 「10」 岡山県郷土文化財団 岡崎嘉平太記念館. 紀要 第三号 岡崎嘉平太 講演集 3. 「M」. 創文社. 2007
- 「11」 岡山県郷土文化財団. 岡崎嘉平太のビデオ (岡山県人物シリーズ④——岡崎嘉平太). 平成 1996
- 「12」 岡山県郷土文化財団 岡崎嘉平太記念館. 絵本. 2010
- 「13」 岡崎嘉平太記念館のパンフレット (日本語版と中国語版)
- 「14」 <http://www.okazaki-kaheita.jp/about/index.html> 岡崎嘉平太記念館ホームページ
- 「15」 越宗孝昌. 深い親愛感国交を回復②岡崎嘉平太と周恩来総理. 山陽新聞. 「N」. 2010-8-15
- 「16」 岡崎嘉平太. 私の記録. 「EB/OL」. 東方書店. 1978.
<http://www.okazaki-kaheita.jp/book/index.html>
- 「17」 岡崎嘉平太. 二十一世紀へのメッセージ. 「EB/OL」. (2010—11—29).
<http://ebooksystems.co.jp/xpress/testuploader/21MSG/flipviewerxpress.html>

